

われましました。その時私は、どうしてそんなこ
とを言われるのか理解できませんでした。
そしてこの六月、先生の薦めにより私はあ
る講演会に参加しました。それは、スイスジ
ュネーブの国連難民高等弁務官事務所で働か
れている織田靖子さんの「世界を知ろう！世
界で働こう！」と題する講演会だったのです
私がお会場に着くと、高校生を中心に五百名近
い人が詰めかけて満員でした。織田さんは民
間企業で働いた後、青年海外協力隊に入り、
その後、国連難民高等弁務官事務所働き、
東アフリカやパキスタンなどの難民を支援さ
れているそうです。その話の中で、難民の数
は年々増加し、二〇一四年には約六千万人が
難民となり、毎日約四万二千五百人が紛争や
テロから逃れるために避難している現実があ
ると言われました。難民や避難民となる原因
は戦争や迫害、干ばつによるもので、その数
は、世界人口で見ると百二十二人に一人に上
るといふ衝撃的なものでした。

情報	い	決		と	生	に	い	こ	の	「	す	き		た	満	四	私	っ	
報	か	意	講	ア	だ	聞	い	と	で	支	る	る		私	た	千	達	て	
を	、	し	演	ド	か	い	。また	が	、	援	こ	こ	私	は	な	枚	が	い	
集	何	、	会	バ	ら	て	現	一	自	の	と	は	講	、	い	で	一	た	
め	が	S	以	イ	こ	、	地	番	分	の	は	何	演	恥	の	、	年	は	
て	必	S	降	ス	そ	現	の	。そ	好	好	か	か	会	ず	で	間	間	は	
い	要	を	、	を	出	状	生	し	き	な	を	中	か	。そ	の	に	違		
ま	な	使	私	下	来	を	徒	て	な	分	直	で	し	れ	難	集	い		
す	の	っ	は	さ	る	知	に	英	野	野	接	、	く	を	民	め	だ		
。	か	て	自	い	こ	る	何	語	を	を	織	織	な	知	数	た	っ		
国	、	直	ら	ま	と	こ	を	の	し	し	田	田	り	求	の	子	た		
や	途	接	行	し	が	も	し	勉	っ	さん	さ	ま	め	が	一	ど	と		
習	上	困	動	た	あ	大	欲	強	か	に	せ	ま	ら	付	パ	も	女		
慣	国	っ	を	。	る	切	し	は	か	高	て	し	れ	き	ー	と	性		
に	の	て	起		は	で	い	必	を	校	い	ま	て	ま	セ	の	の		
よ	方	る	こ		ず	す	か	ず	直	生	し	し	い	し	ン	服	の		
っ	々	こ	す		で	こ	を	し	な	に	た	た	い	た	ト	は	約		
て	か	と	こ		す	。高	を	な	さ	で	た	い	い	た	に	は	約		
必	ら	は	と		。高	校	直	さ	る	で	し	い	い	た	も	約			
要	の	な	を		校		直	さ	る	で	し	い	い	た	も	約			

な物も違っ、てきます。例えば、アフリカでは下着は砂でこすって洗うため、白色より緑色が好まれることも知りました。また、暑いイメーシがあるアフリカですが、昼夜の寒暖差が激しく、日中三十度でも朝晩は零度まで下がる地域もあり、食べ物より毛布を必要とし、ている地域も多くあるので、その日の食べ物は何とか用意できても、寒さをしのぐことができず、体調を崩し、働けない、食糧を確保することができないという負の連鎖が起きている現実もあるのです。また「赤ちゃんに、は沢山服を着させなければならぬ」という考えがあるケニアでは、乳児が身に着ける毛糸の帽子や手袋、靴下などを年中必要として、いることも分かりました。多くの方々から、私の声を聞き、それぞれの意見を聞いていくと、メーシと現状に大きな差があることに気付く、ただけではなく、直接現場の声を聞くことでの、確な支援が出来ることが分かってきたのです。

今私の考える国際協力とは、世界で起きた	問題を自分のこととして考えて、行動できる	かどうかだと思おうのです。貧しい発展途上国	にただ寄付をするという考えではなく、自分	の身近な問題として困っている仲間を助けた	いと思うことこそが真の国際協力だと思おうの	です。そして、日本を中心に考えた国対国で	物事を考えるインターナショナルな考えでは	なく、地球を一つと捉えて世界の全ての人	のために行動できるグローバル人材になるため	の力を養わなければならぬと思いました。	将来私は、世界で困っている仲間が一人で	も少なくなるような活動をしたいと思ってい	ます。そして、織田さんのように、沢山の仲	間の声を聞き、地球上の全ての人笑顔で安	心して暮らせる手助けのできる人間になれる	ように、これから仲間のために情報を集め	必要な活動を続け、そして、勉強にも励み	いと思っと思っています。	四十四箱の古着に満足した日から三ヶ月。
---------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	-----------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	---------------------	---------------------	--------------	---------------------

私は織田さんとの出逢いにより、世界の中の一人のグローバル人材として、将来私が目指す社会に向けて第一歩を踏み出しました。共に支えあえる世界になるように、これから私の信じる道を歩み続けていきます。

(1987 字)